

CASBEE®熊本《新築》【性能表示】

■ 建物概要				■ 外観
建物名称	(仮称)プレミスト熊本大江	階数	地上2F	
建設地	熊本県熊本市	構造	S造	
用途地域	第2種住居専用地域、近隣商業地域	平均居住人員	0 人	
気候区分	地域区分Ⅳ	年間使用時間	8,760 時間/年	
建物用途	工場,	評価の段階	実施設計段階評価	
竣工年	2016年3月 予定	評価の実施日	2014年6月30日	
敷地面積	6,911 m²	作成者	高井市朗	
建築面積	1,453 m²	確認日	2014年7月2日	
延床面積	2,835 m²	確認者	池田賀典	

1CASBEE評価結果

■ 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

★★★★★

■ 環境効率評価基準

ランク	ランク表示	評価	判定値	
			BEE値	Q値
S	★★★★★	素晴らしい	3.0以上	50以上
A	★★★★★	大変良い	1.5以上3.0未満	—
B+	★★★★	良い	1.0以上1.5未満	—
B-	★★★	やや劣る	0.5以上1.0未満	—
C	★	劣る	0.5未満	—

■ ライフサイクルCO₂ 排出性能評価基準

判定値(排出率)	ランク表示
30%以下	☆☆☆☆☆
30%超60%以下	☆☆☆☆
60%超80%以下	☆☆☆
80%超100%以下	☆☆
100%超	☆

■ ライフサイクルCO₂排出性能(ランク表示)

☆☆☆☆☆

排出率

100%

2 熊本県重点評価結果

■ 重点事項総合評価

82

【重点事項1】 温室効果ガス排出量削減の推進

100.0

【重点事項2】 安全安心で暮らしやすい社会の実現

66.6

【重点事項3】 県の地域資源の有効活用と保全

75.0

【重点事項4】 循環型社会の実現

66.0

■熊本県重点評価基準

判定値(評価点)	ランク表示
100点以上	
80点以上100点未満	
60点以上80点未満	
40点以上60点未満	
40点未満	

※評価点は、100点以上が推奨です。

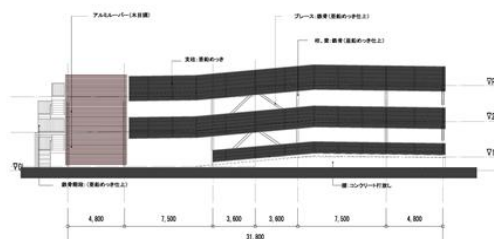
Page : 1/6

Sheet : 1/5

CASBEE®熊本《新築》【評価結果】

この評価ソフトは、改正省エネ基準の経過措置が終わる2015年3月までの期間限定で使用できます。

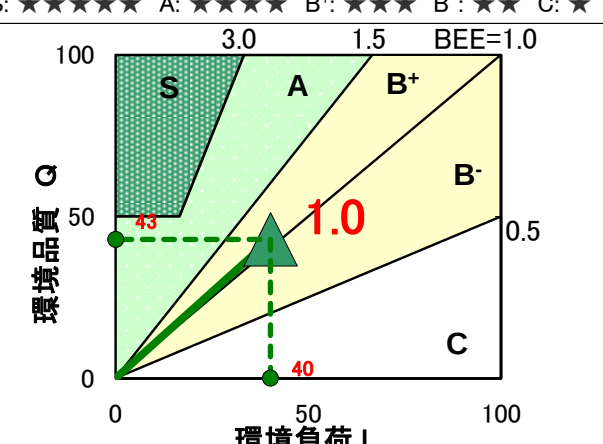
■使用評価マニュアル：CASBEE-新築《簡易版》2010年追加版Ver.2 (BPI/BEI対応) ■使用評価ソフト：CASBEE-NCb_2010bpi&bei(v.2.0)

1-1 建物概要				1-2 外観
建物名称	(仮称)プレミスト熊本大江	階数	地上2F	
建設地	熊本県熊本市	構造	S造	
用途地域	第2種住居専用地域、近隣商業地域	平均居住人員	0 人	
気候区分	地域区分Ⅳ	年間使用時間	8,760 時間/年	
建物用途	工場,	評価の段階	実施設計段階評価	
竣工年	2016年3月 予定	評価の実施日	2014年6月30日	
敷地面積	6,911 m ²	作成者	高井市朗	
建築面積	1,453 m ²	確認日	2014年7月2日	
延床面積	2,835 m ²	確認者	池田賀典	

2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

BEE = 1.0 ★★★★★

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B-: ★★★★★ C: ★



2-2 ライフサイクルCO₂(温暖化影響チャート)

標準計算

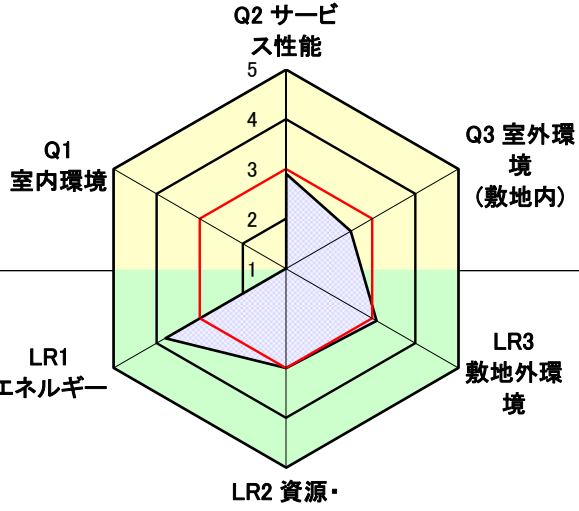
①参照値 ②建築物の取組み ③上記+②以外の ④上記+

30%: ☆☆☆☆ 60%: ☆☆☆☆ 80%: ☆☆☆ 100%: ☆☆ 100%超: ☆

建設 修繕・更新・解体 運用 オンサイト オフサイト

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO₂排出量の目安で示したものです

2-3 大項目の評価(レーダーチャート)



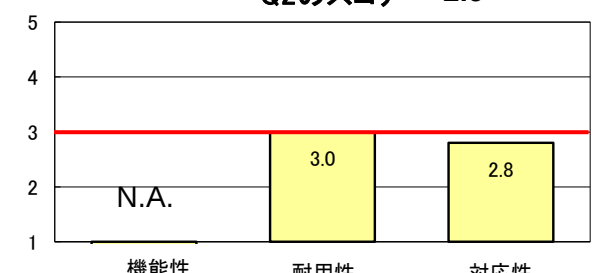
2-4 中項目の評価(バーチャート)

Q 環境品質 Q のスコア = 2.7

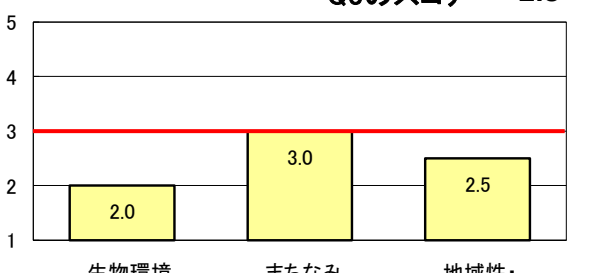
Q1 室内環境 Q1のスコア = 0.0



Q2 サービス性能 Q2のスコア = 2.9



Q3 室外環境(敷地内) Q3のスコア = 2.5

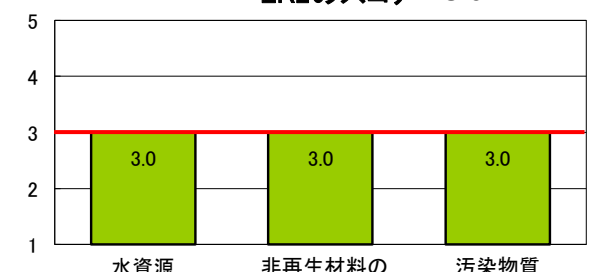


LR 環境負荷低減性 LR のスコア = 3.3

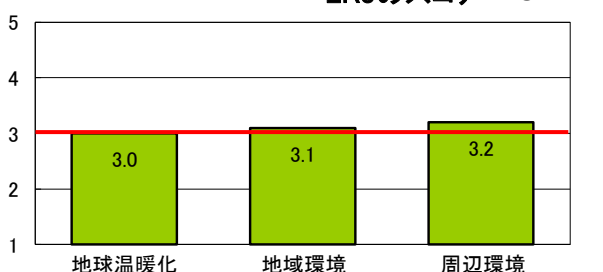
LR1 エネルギー LR1のスコア = 3.8



LR2 資源・マテリアル LR2のスコア = 3.0



LR3 敷地外環境 LR3のスコア = 3.1



3 熊本県重点評価結果

重点事項総合評価

評価点 = 82



重点事項1: 温室効果ガス排出量削減の推進 評価点 = 100



重点事項2: 安全安心で暮らしやすい社会の実現 評価点 = 67



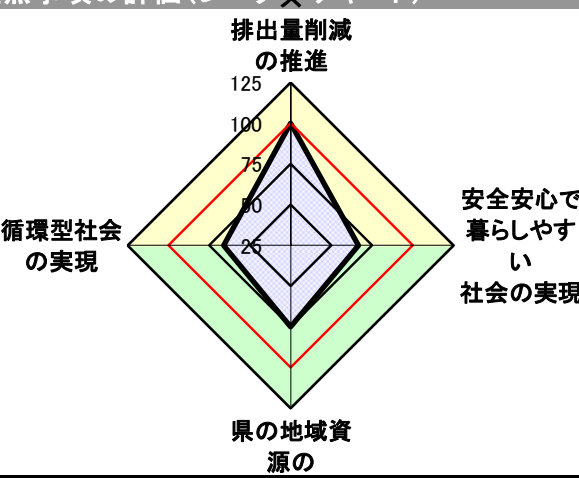
重点事項3: 県の地域資源の有効活用と保全 評価点 = 75



重点事項4: 循環型社会の実現 評価点 = 66



重点事項の評価(レーダスチャート)



■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Building Environmental Efficiency (建築物の環境効率)
■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
■評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される

CASBEE®熊本《新築》【配慮事項】

4 設計上の配慮事項

総合

注) 設計における総合的なコンセプトを簡潔に記載してください。

熊本市内、緑の多い文教地区に計画されたマンションの付属駐車場は、居住者が安全にかつ快適に使用できるよう、敷地内に確保した。

建物は落ち着いた色調で、住宅の建物、及び周辺の街並みに溶け込ませるように意図した。

Q1 室内環境

注) 「Q1 室内環境」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。

適用外

Q2 サービス性能

注) 「Q2 サービス性能」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。

適正な空間の構成、メンテナンス性を考慮した材料、設備などの配慮を行っている。

Q3 室外環境（敷地内）

注) 「Q3 室外環境（敷地内）」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。

建物に面して広大な広場、緑地が本計画のコンセプトとしている。地表の温度上昇を軽減する材料にも配慮している。設置住戸には専用庭や菜園を計画し、自然との関わりを持てるような仕掛けを創っている。

LR1 エネルギー

注) 「LR1 エネルギー」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。

照明設備にLED照明など省エネルギー化を図っている。

LR2 資源・マテリアル

注) 「LR2 資源・マテリアル」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。

現時点で再利用を行いやすい資材については積極的に採用する。

LR3 敷地外環境

注) 「LR3 敷地外環境」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。

社会的な環境基準値を満たすことはもちろん、高い空地率を確保する。

駐車、駐輪台数の確保や利用者、歩行者の安全性にも配慮した。

その他

注) 上記の6つのカテゴリー以外に、建設工事における廃棄物削減・リサイクル、歴史的建造物の保存など、建物自体の環境性能としてCASBEEで評価し難い環境配慮の取組みがあれば、ここに記載してください。

CASBEE-新築(簡易版)2010年追補 (仮称)プレミスト熊本大江			欄に数値またはコメントを記入		■使用評価マニュアル CASBEE-新築（簡易版）2010年追補版Ver.2（BPVBEI対応） ■評価ソフト: CASBEE-NCb_2010bpi&bei(v				
スコアシート			実施設計段階						
配慮項目			環境配慮設計の概要記入欄		建物全体・共用部分		住居・宿泊部分		全体
					評価点	重み係数	評価点	重み係数	
Q 建築物の環境品質									2.7
Q1 室内環境					-				-
1 音環境					-	-	-	-	-
1.1 騒音				-	-	-	-		
1 室内騒音レベル		-		-	3.0	-			
2 設備騒音対策		-		-	-	-			
1.2 遮音				-	-	-	-		
1 開口部遮音性能		-		-	3.0	-			
2 界壁遮音性能		-		-	3.0	-			
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)		3.0		-	3.0	-			
4 界床遮音性能(重量衝撃源)		3.0		-	3.0	-			
1.3 吸音				-	-	3.0	-		
2 温熱環境				-	-	-	-		-
2.1 室温制御				-	-	-	-		
1 室温		-		-	3.0	-			
2 負荷変動・追従制御性		-	-	-	-				
3 外皮性能		-	-	3.0	-				
4 ゾーン別制御性		-	-	-	-				
5 温度・湿度制御		-	-	-	-				
6 個別制御		-	-	-	-				
7 時間外空調に対する配慮		-	-	-	-				
8 監視システム		-	-	-	-				
2.2 湿度制御			-	-	3.0	-			
2.3 空調方式			-	-	3.0	-			
3 光・視環境			-	-	-	-	-		
3.1 屋光利用			-	-	-	-			
1 屋光率		-	-	3.0	-				
2 方位別開口		-	-	3.0	-				
3 屋光利用設備		-	-	3.0	-				
3.2 グレア対策			-	-	-	-			
1 照明器具のグレア		-	-	-	-				
2 屋光制御		-	-	3.0	-				
3 映り込み対策		-	-	-	-				
3.3 照度			-	-	3.0	-			
3.4 照明制御			-	-	3.0	-			
4 空気質環境			-	-	-	-		-	
4.1 発生源対策			-	-	-	-			
1 化学汚染物質		-	-	3.0	-				
2 アスベスト対策		-	-	-	-				
3 ダニ・カビ等		-	-	-	-				
4 レジオネラ対策		-	-	-	-				
4.2 換気			-	-	-	-			
1 換気量		-	-	3.0	-				
2 自然換気性能		-	-	3.0	-				
3 取り入れ外気への配慮		-	-	3.0	-				
4 給気計画		-	-	-	-				
4.3 運用管理			-	-	-	-			
1 CO ₂ の監視		-	-	-	-				
2 喫煙の制御		-	-	-	-				
Q2 サービス性能			-	0.43	-	-	2.9		
1 機能性			-	-	-	-	-		
1.1 機能性・使いやすさ			-	-	-	-			
1 広さ・収納性		-	-	3.0	-				
2 高度情報通信設備対応		-	-	3.0	-				
3 バリアフリー計画		-	-	-	-				
1.2 心理性・快適性			-	-	-	-			
1 広さ感・景観		-	-	3.0	-				
2 リフレッシュスペース		-	-	-	-				
3 内装計画		-	-	-	-				
1.3 維持管理			-	-	-	-			
1 維持管理に配慮した設計		-	-	-	-				
2 維持管理用機能の確保		-	-	-	-				
3 衛生管理業務		-	-	-	-				
2 耐用性・信頼性			3.0	0.52	-	-	3.0		
2.1 耐震・免震			3.0	0.48	-	-			
1 耐震性		3.0	0.80	-	-				
2 免震・制振性能		3.0	0.20	-	-				
2.2 部品・部材の耐用年数			3.0	0.33	-	-			
1 躯体材料の耐用年数		3.0	0.27	-	-				
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔		3.0	0.27	-	-				
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔		-	-	-	-				
4 空調換気ダクトの更新必要間隔		-	-	-	-				
5 空調・給排水配管の更新必要間隔		3.0	0.18	-	-				
6 主要設備機器の更新必要間隔		3.0	0.27	-	-				

	2.3 適切な更新			-	-	-	-	
	2.4 信頼性			3.0	0.19	-	-	
	1	空調・換気設備		-	-	-	-	
	2	給排水・衛生設備		3.0	0.33	-	-	
	3	電気設備		3.0	0.33	-	-	
	4	機械・配管支持方法		3.0	0.33	-	-	
	5 通信・情報設備			-	-	-	-	
	3 対応性・更新性			2.8	0.48	-	-	2.8
	3.1 空間のゆとり			2.6	0.31	-	-	
	1	階高のゆとり		1.0	0.60	3.0	-	
	2	空間の形状・自由さ	S造により耐力壁なし	5.0	0.40	3.0	-	
	3.2 荷重のゆとり			3.0	0.31	3.0	-	
	3.3 設備の更新性			3.0	0.38	-	-	
	1	空調配管の更新性		-	-	-	-	
	2	給排水管の更新性		3.0	0.23	-	-	
	3	電気配線の更新性		3.0	0.15	-	-	
	4	通信配線の更新性		-	-	-	-	
	5	設備機器の更新性		3.0	0.31	-	-	
	6	バックアップスペースの確保		3.0	0.31	-	-	
Q3 室外環境(敷地内)				-	0.57	-	-	2.5
1 生物環境の保全と創出				2.0	0.30	-	-	2.0
2 まちなみ・景観への配慮				3.0	0.40	-	-	3.0
3 地域性・アメニティへの配慮				2.5	0.30	-	-	2.5
3.1 地域性への配慮、快適性の向上				3.0	0.50	-	-	
3.2 敷地内温熱環境の向上				2.0	0.50	-	-	
LR 建築物の環境負荷低減性				-	-	-	-	3.3
LR1 エネルギー				-	0.40	-	-	3.8
1 建物の熱負荷抑制				-	-	-	-	-
2 自然エネルギー利用				3.0	0.29	-	-	3.0
2.1 自然エネルギーの直接利用				3.0	0.50	-	-	
2.2 自然エネルギーの変換利用				3.0	0.50	-	-	
3 設備システムの高効率化		LED照明により効率化		5.0	0.43	-	-	5.0
集合住宅以外の評価(ERRIによる評価)		ERR=0%		5.0		-	-	
集合住宅の評価				3.0		-	-	
4 効率的運用				3.0	0.29	-	-	3.0
4.1 モニタリング				3.0	0.50	-	-	
4.2 運用管理体制				3.0	0.50	-	-	
LR2 資源・マテリアル				-	0.30	-	-	3.0
1 水資源保護				3.0	0.15	-	-	3.0
1.1 節水				-	-	-	-	
1.2 雨水利用・雑排水等の利用				3.0	1.00	-	-	
1 雨水利用システム導入の有無				3.0	1.00	-	-	
2 雑排水等利用システム導入の有無				-	-	-	-	
2 非再生性資源の使用量削減				3.0	0.63	-	-	3.0
2.1 材料使用量の削減				2.0	0.07	-	-	
2.2 既存建築躯体等の継続使用				3.0	0.25	-	-	
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用		-		3.0	0.21	-	-	
2.4 非構造材料におけるリサイクル材の使用		-		1.0	0.21	-	-	
2.5 持続可能な森林から産出された木材				-	-	-	-	
2.6 部材の再利用可能性向上への取り組み		配線の打ち込み等の軽減		5.0	0.25	-	-	
3 汚染物質含有材料の使用回避				3.0	0.22	-	-	3.0
3.1 有害物質を含まない材料の使用				3.0	1.00	-	-	
3.2 フロン・ハロンの回避				-	-	-	-	
1 消火剤				-	-	-	-	
2 発泡剤(断熱材等)				-	-	-	-	
3 冷媒				-	-	-	-	
LR3 敷地外環境				-	0.30	-	-	3.1
1 地球温暖化への配慮				3.0	0.33	-	-	3.0
2 地域環境への配慮				3.1	0.33	-	-	3.1
2.1 大気汚染防止				3.0	0.25	-	-	
2.2 温熱環境悪化の改善				3.0	0.50	-	-	
2.3 地域インフラへの負荷抑制				3.7	0.25	-	-	
1 雨水排水負荷低減		浸透枳、浸透ピットによる抑制		4.0	0.25	-	-	
2 污水处理負荷抑制				3.0	0.25	-	-	
3 交通負荷抑制		適切な駐車、駐輪可能台数の確保		5.0	0.25	-	-	
4 廃棄物処理負荷抑制				3.0	0.25	-	-	
3 周辺環境への配慮				3.2	0.33	-	-	3.2
3.1 騒音・振動・悪臭の防止				3.0	0.40	-	-	
1 騒音				3.0	0.33	-	-	
2 振動				3.0	0.33	-	-	
3 悪臭				3.0	0.33	-	-	
3.2 風害・砂塵、日照阻害の抑制				3.0	0.40	-	-	
1 風害の抑制				3.0	0.70	-	-	
2 砂塵の抑制				3.0	-	-	-	
3 日照阻害の抑制				3.0	0.30	-	-	
3.3 光害の抑制				4.3	0.20	-	-	
1 屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策		適切な照度、配光に配慮		4.0	0.70	-	-	
2 屋光の建物外壁による反射光(グレア)への対策		反射材料の不使用		5.0	0.30	-	-	

熊本県重点評価結果スコアシート

実施設計段階

建物名称

(仮称)プレミスト熊本大江

■評価ソフト: CASBEE-NCb_2010_kmt2011(v3.0)

■使用評価マニュアル: CASBEE熊本《新築》2011年版

★熊本県重点評価結果				総合評価点		81.5
重点事項				評価点	重点事項 重み係数	評価配点
重点項目(配慮項目)		スコア	重み 係数			
① 温室効果ガス排出量削減の推進				100	0.40	40.00
Q1-2.1.3	外皮性能	3.0	0.00			
Q1-3.1.3	昼光利用設備	3.0	0.00			
Q1-3.2.2	昼光制御	3.0	0.00			
LR1-1	建物の熱負荷抑制	0.0	0.00			
LR1-2	自然エネルギー利用	3.0	0.29			
LR1-3	設備システムの高効率化	5.0	0.43			
LR2-2.1	材料使用量の削減	2.0	0.14			
LR3-2.3.3	交通負荷抑制	5.0	0.14			
② 安全安心で暮らしやすい社会の実現				66.6	0.20	13.32
Q2-1.1.3	バリアフリー計画	0.0	0.00			
Q2-2.1.1	耐震性	3.0	0.33			
Q3-1	生物環境の保全と創出	2.0	0.20			
Q3-3	地域性・アメニティへの配慮	2.5	0.27			
LR3-2.2	温熱環境悪化の改善	3.0	0.20			
③ 県の地域資源の有効活用と保全				75	0.20	15.00
Q3-2	まちなみ・景観への配慮	3.0	0.50			
LR2-1.1	節水	0.0	0.00			
LR2-1.2.1	雨水利用システム導入	3.0	0.50			
LR2-2.5	持続可能な森林から産出された木材	0.0	0.00			
④ 循環型社会の実現				66	0.20	13.20
Q2-2.2	部品・部材の耐用年数	3.0	0.30			
Q2-3	対応性・更新性	2.8	0.30			
LR2-2.2	既存建築躯体等の継続使用	3.0	0.10			
LR2-2.3	躯体材料におけるリサイクル材の使用	3.0	0.15			
LR2-2.4	非構造材料におけるリサイクル材の使用	1.0	0.15			

■評価点算出式

評価点は、以下の方法により算出しています。

◆総合評価結果

総合評価点 = (各重点事項の評価点 × 各重点事項の重み係数) の総和
 ※重み係数の総和は、「1」であること。

◆各重点事項(①～④の項目)

評価点 = (各重点項目のスコア × 各重点項目の重み係数) の総和 × (5/4) × 20
 ※重み係数の総和は、「1」であること。
 ※(5/4) × 20 : スコア4点を評価点100点に変換するスケーリング定数